

# 博士課程教育リーディングプログラム現地視察報告書(平成29年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

機 関 名	東京大学	整理番号	P01
プログラム名称	社会構想マネジメントを先導するグローバルリーダー養成プログラム		
プログラム責任者	飯塚 敏晃	プログラムコーディネーター	城山 英明
<p><b>1. 進捗状況概要</b></p> <p>1) 中間評価段階で申請書に記載された内容については遂行しており、申請時の内容を超えた要望も含めて記載した各留意事項に対して真摯に適切な対応策を講じたり、検討している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PBL (プロジェクト・ベースト・ラーニング) については、平成 29 年度より従来の「政府課題」を「政府社会課題」に改め、カバーできていなかった少子化や貧困問題を含めて対応している。</li> <li>・プログラム改善への学生意見の取り入れ策については、学生委員会と特任教員との合同会議を毎月開催し、協議して決めている。この会議を見学して、教員が学生の意見を聞き、双方が真剣かつ積極的に改善していこうとしている実態が理解できた。</li> <li>・体系的なグローバルリーダーシップ論については、海外大学等の講座を分析した上で、新たに平成 29 年度はリーダーシップ論に関するセミナーを企画し、平成 30 年度にはコースワーク等にする事の検討を開始した。</li> </ul> <p>2) プログラムの最初から参加している D3 学生からの意見では、プログラムは毎年度改善を重ね、成長・発展しており、学生と教員の意見の相違が年々小さくなり、概ね学生には前向きに受け入れられている。プログラム責任者、コーディネーター、担当者の努力の成果が現れているように思われる。</p> <p>3) 教員だけでなく、現在の履修生や過年度の修了者が本プログラムの運営に積極的に関わり、総長が本プログラムの支援期間終了後も継続して経済的支援をすることを約束していることから、本プログラムが支援期間後も本大学に残ることが期待される。</p> <p>4) 本年度に実施した選抜でも 2 倍を超える学生が応募しており、優秀な学生の確保を継続している。また、専門分野、男女比、日本人学生と留学生の比率も適切である。</p> <p><b>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</b></p> <p>1) 本プログラム履修生の半数以上が工学系で、生命科学を含めると約 8 割が理系で実験系の研究室に所属している者が多いことから、研究室によっては学生の本プログラムへの参加を指導教員が抑制するところもある。そのため、本プログラム参加の意義について学内の全教員が理解を共有し、学生が指導教員と本プログラムの狭間に立たされることがないように継続して努力することが望まれる。</p> <p>2) これまでの修了者の中には WHO など国際機関でインターンシップを受けている者もいるが、直近の修了者の多くが研究者（大学の研究者 4 名、研究機構・研究所の研究者 2 名、民間企業 1 名）として就職していることから、国際機関や広く海外展開している産業界への就職についても学生を導く手立てを講じていただきたい。</p> <p>3) 文系、理系学生への各分野の基本的・導入的講義を設けていることがこのプログラムの一つの特徴でもあるが、文系学生への理系科目の導入講義については、一層、解りやすいものに工夫することが求められる。</p> <p>4) 留学生からの意見として、日本語で行われている授業で興味のある科目が多く、英語でも実施してほしいとの要望があったため、英語による授業の充実化を検討いただきたい。</p>			